

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 18 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2014

課題番号：22240024

研究課題名(和文) 図書館情報学教育を高度化するための研究基盤形成

研究課題名(英文) Research infrastructure formation for advancement of library and information science education

研究代表者

根本 彰(Nemoto, Akira)

東京大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：90172759

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 37,700,000円

研究成果の概要(和文)：5年間にわたる本プロジェクト(通称LIPER3)では、過去2回のLIPER研究で抽出した図書館情報学教育の問題構造に変化を与えるために次の実践研究を行った。

第一に、図書館情報学教育の教育内容を見直すために、新しい標準的な教科書シリーズを執筆し刊行した。第二に、この標準的な教育内容に沿って各教育機関がどのような教育成果を上げているかを自己評価できるように、図書館情報学検定試験を4年間にわたり実施した。第三に、外国の図書館情報学教育の状況を把握し関係者と交流するために、アメリカの標準的教科書を翻訳・刊行し、国際学会で日本の図書館情報学教育について発表し、欧米の教育機関での聞き取り調査を実施した。

研究成果の概要(英文)：This LIPER3 project over five years after the past two phases of LIPER research project has been carried out as the following three types of research, in order to give a change to the structural condition of Japanese library and information science(LIS) education system.

First, in order to review and share the educational content of LIS, we wrote the new LIS standard textbook series and published them by an academic press. Second, the LIS examination has been carried out once a year, in order that each educational institution can evaluate its own educational content and educational outcomes through the self-evaluation process. Third, in order to grasp the situation of foreign LIS education and to exchange them each other we published a translation of the American LIS standard textbook, made the research communication at international conferences, and visited and carried out interviews at the educational institutions in Europe and the United States.

研究分野：図書館情報学

キーワード：図書館情報学教育 司書養成課程 図書館情報専門職

1. 研究開始当初の背景

平成15年から平成17年の科学研究費補助金基盤研究(A)「情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究」(研究代表者:上田修一慶應義塾大学教授、以下LIPERと略称する)では、最終的に、国際的な教育水準を見据えて日本でも図書館情報学を専門とする大学院課程の設置を実現することが必要なこと、そして、そのために現行の司書課程で単なる公共図書館司書を養成するだけでなくもっと広い図書館情報学教育を実施することを提案し、それを促すための図書館情報学検定試験の実施の必要性を述べた。

この「LIPER提言」を受けて平成18年から平成21年に実施した科学研究費補助金基盤研究(A)「情報専門職養成をめざした図書館情報学教育の再編成」(研究代表者:根本彰東京大学教授、以下LIPER2と略称する)では、2009年3月にはアジア太平洋図書館情報教育国際会議(A-LIEP2009)を開催して国際的な意見交換をしながら、LIPER提言の個別の部分を検討し、そのなかでも図書館情報学検定試験の準備試験を進めた。

LIPER、LIPER2を実施することにより、日本の図書館関係者や行政関係者に一定のインパクトを与えることができた。とくに2008年6月の図書館法改正では、1950年の法成立後初めて「大学における図書館に関する科目」の実質制度化を促し、それに続く2009年4月の図書館法施行規則改正では司書養成科目の24単位化と「図書館情報技術論」等の新設科目設置に影響を与えることができた。だがそれにもかかわらず法制度整備の遅れは目につき、日本の図書館情報学教育の本質的な課題が明らかになったといえる。

2. 研究の目的

本研究(以下、LIPER3とする)は、このような状況において次のような課題を精細に検討しつつ、図書館情報学教育を国際的な環境における知識情報社会状況および大学教育制度のなかに位置づけ、さらにこれを改善するための実践的な研究を行うものである。

(1) 検定試験実施による評価体制の確立

司書資格は国家資格であるが、大学での単位の積み重ねで資格となり、国家試験が行われない稀有な資格である。大学での養成体制が法に明記されたことにより、これまで以上に、関係者による自主的な評価体制をつくることになった。そのために、教育機関の自主的な評価に使用できる検定試験の実施を行う。

(2) 専門教育の内容、レベルの定立

LIPER2で検定試験の準備を行ってもっとも苦労したことのひとつは、専門的な教育内容に関するコンセンサスが十分でないことである。これは養成体制の問題であるとともに図書館情報学研究が十分に教育に反映されていないからであるだろう。このため、第

一線の研究者に参加してもらい、その研究を踏まえた標準的な教科書を執筆・刊行する。(3) 研究教育の国際的な状況との摺り合わせ

こうした教育の貧困は研究状況の貧困からきている部分も少なくない。司書課程の教員は図書館情報学で要求されるかなり広い領域を少数者でカバーする必要があるために、研究者であるよりも教育者であることを要求される。これが研究業績の少ない教員が多い理由であり、全体として日本の図書館情報学研究の貧困な状況を生み出している。また、個別に国際学会での発表や外国の研究者との交流を行っている研究者もいるが、体系的には進んでいない。こうした状況に対応するために、国際的な交流を行う場を設けるとともに、外国の図書館情報学教育機関との積極的な結びつきを検討する。

以上、2003年から3年にわたって行った本研究のLIPER提言(2006年)を概念枠組みとすることに変わりないが、それをより実効的に制度化するための方策として、図書館情報学検定試験の改善、具体的な図書館情報学研究パラダイムの確認とその内容の教科書化および教材化、図書館情報学教育の国際化を推進することを最終目的とする。

3. 研究の方法

LIPER、LIPER2の二つの研究で蓄積された共同研究のノウハウの蓄積があるのでそれを継承することから始まる。具体的には、2003年LIPER報告を基点として教育研究体制を検討することであり、検定試験を準備することであり、日本図書館情報学会を足がかりにすることである。これらを生かしながら、この研究では研究パラダイムそのものの見直しと再構築に取り組む。とくに外国の研究と比較しながらも日本的な状況下で生まれた図書館情報学の独自性を明確にし、それを伸ばすことを行うところが独創的な点である。

研究組織として、研究代表者が会長を務めていた日本図書館情報学会を拠点にして、その常任理事会や編集委員会、研究委員会で中心になって活動している次代を担う若手研究者を結集して、図書館情報学の研究教育を総括し、今後について議論を詰める。図書館情報学の研究拠点は一部の大学をのぞくと多くの大学にばらばらに存在していて、共同研究を行う機会が乏しい傾向があるので、多くの研究者を動員することで、図書館情報学のパラダイムそのものの意識的見直しをはかり、2010年代のこの領域の行方を見据えようとするものである。

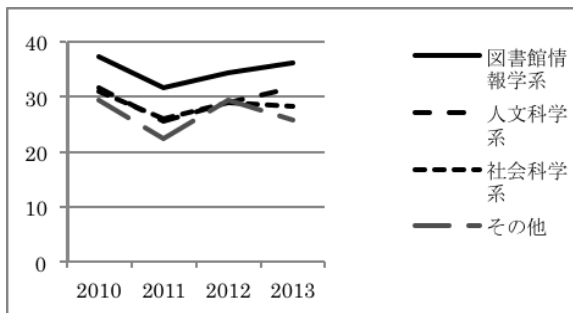
4. 研究成果

(1) 検定試験実施による評価体制の確立

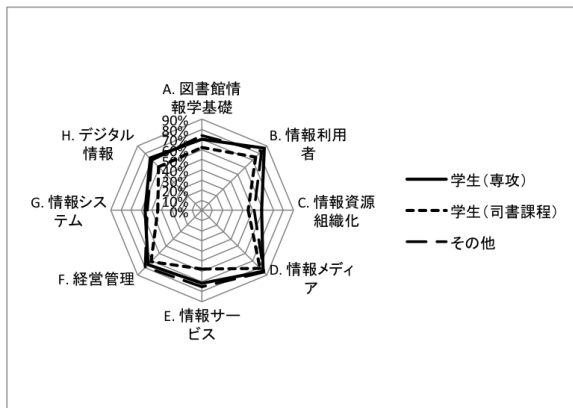
図書館情報学の専門教育と従来の司書課程教育を結びつける方法として、図書館情報学検定試験を開発して、2010年から2013年度まで公開の場での検定試験を実施して、その結果を受験者、担当大学に返し、全体的な

分析を行った。まず、LIPER2において出題した問題を集めた『図書館情報学検定試験問題集』(日本図書館協会 2010)を分担執筆した。試験問題作成においては、各分野の専門家が集まって5肢択一の問題を50問用意した。この過程でこの領域の教育課程のさまざまな問題が指摘された。試験自体は11月末に全国の6~8会場において一斉に行い、実施後採点を行って、受験者に返却した。また、年度ごとの全体的な評価を行って実施大学の担当者に送った。2014年度には、蓄積された4年分のデータをまとめて報告書として刊行し公表した。

結果としては、図書館情報学系の受験者の得点(50点満点)が一番高く、それ以外の専攻の受験者と一定の差が見られた。



また、図書館情報学の各分野毎の得点値に関して、図書館情報学専攻学生、司書課程学生、社会人を含むその他を比べると、図書館情報学専攻の学生と社会人その他の受験者が司書課程その他の学生よりも得点が高いことが確認できた。(2013年度試験)これらの結果は、この試験が図書館情報学の専門試験としての妥当性があることを示している。



(2) 専門教育の内容、レベルの定立

日本における図書館情報学専門教育を推進するための基盤を形成するにあたって、図書館情報学の専門教育内容を明確にすることが必要である。このために、図書館情報学の標準的教科書として「シリーズ図書館情報学」全3巻を執筆し、2013年に東京大学出版会から出版した。

第1巻『図書館情報学基礎』(根本彰編) 1 知識と図書館情報学 2 メディアと知識資源 3 情報利用者と利用行動 4 学術コミュニケーション 5 計量情報学 6 図書館情報学をつくる

第2巻『情報資源の組織化と提供』(根本彰, 岸田和明編) 1 情報資源の管理とアクセス 2 情報資源組織論 1: 資源組織化 3 情報資源組織論 2: 分類・索引 4 情報検索 5 ウェブ情報資源の管理とアクセス 6 情報資源と情報サービス

第3巻『情報資源の社会制度と経営』(根本彰編) 1 情報・知識資源制度の構造 2 情報資源管理の法的関係 3 情報資源経営の基礎 4 情報資源経営各論 1 5 情報資源経営各論 2

加えて、科研のメンバーによって日本の戦後の図書館情報学教育全体を見直すための資料集の編集作業を行い、中村百合子, 松本直樹, 三浦太郎, 吉田右子編著, 根本彰監修による出版物『図書館情報学教育の戦後史: 資料が語る専門職養成制度の展開』(ミネルヴァ書房)を2015年3月に刊行した。

(3) 研究教育の国際的な状況との摺り合わせ

日本の図書館情報学専門教育を外国の同教育と比較するためにいくつかの事業を実施した。まず、アメリカの図書館情報学の標準的教科書リチャード・ルービン著『図書館情報学概論』第3版の翻訳書(東京大学出版会)を準備して、2014年6月に刊行した。次に、三輪眞木子放送大学教授の研究プロジェクトと連携して、Quality Assurance in LIS Education: An International and Comparative Study(Springer)を刊行し、研究代表者は日本の図書館情報学の現状を分析した論考(Is the GALAPAGOS Phenomenon Over? : Second Consideration of Japanese LIS Education in the International Setting)を執筆している。

また、研究代表者は2014年にヨーロッパ(コペンハーゲン、リヨン)およびアメリカ(ホノルル)の図書館情報学専門教育機関を訪問し、専門教育の実態を聞き取りした。その成果の一部は、2015年4月に『場所としての図書館・空間としての図書館: 日本・アメリカ・ヨーロッパを見て歩く』(学文社刊)として刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計15件)

根本彰, 司書養成のあり方を問い返す, 図書館雑誌, 査読無, 107, 2013, 576-579

根本彰, フランスの学校教育における資料情報支援体制, 学習情報研究, 査読無, 230, 2013, 52-55

三輪眞木子, 図書館情報専門職教育の課題 国際的な調和を目指して, 情報管理, 査読無, 54, 2012, 611-621

根本彰, 資格社会における司書の専門性評価の方法について, 図書館雑誌, 査読無, 106, 2012, 714-716

根本彰, 青柳英治, 松本直樹, 日本の専門職養成構造における司書の位置づけ--「管理業

養士」「臨床心理士」との比較において，生涯学習基盤経営研究，査読有，37，2012，57-71

小田光宏，「派遣型研修」の特性と需要に関する研究，図書館学，査読有，101，2012，44-66

小田光宏，成果共有型ネットワークを活用したレファレンス研修プログラムの有効性に関する実証的研究，図書館界，査読有，64，2013，310-326

三浦太郎，戦前から戦後占領期日本における図書館員養成の実態：講習の展開を中心に，明治大学人文科学研究所紀要，査読無，70，2012，194-214

三浦太郎，日本図書館史研究の特質：最近10年間の文献整理とその検討を通じて，明治大学図書館情報学研究会紀要，査読無，3，2012，34-42

古賀崇，総論：アーカイブズをいかに位置づけるか：日本の現状からのレビュー，情報の科学と技術，査読無，62，2012，408-414

古賀崇，電子環境下での政府情報の管理・保存・公開と図書館・文書館・記録管理機能の融合：米国アリゾナ州政府の事例を通じての考察，レコード・マネジメント，査読有，62，2012，57-72

根本彰，日本図書館協会と専門職養成の今後，図書館雑誌，査読無，105，2011，804-806

根本彰，図書館と出版の新しい関係，出版ニュース，査読無，2250号，2011，12-15

Miwa, M, Kasai, Y., Miyahara, S. Global LIS: An Effort to Describe Trends in Japanese LIS Education for Global Collaboration Education for Information, 査読有，28，2011，125-136

根本彰，「図書館制度・経営論」について，日本図書館協会図書館学教育部会会報，査読無，92号，2010，10-14

〔学会発表〕(計14件)

根本彰，日本の専門職養成の構造からみた図書館専門職養成の検討，日本図書館情報学会シンポジウム(招待講演)，2013年03月16日，東京大学

小田光宏，司書資格の有無は，研修に対する意識に影響を及ぼしているか，西日本図書館学会秋季研究発表会，2012年12月01日，福岡県立図書館

根本彰，東京大学出版会テキスト編集の立場から：LIPER3 図書館員養成教育と図書館情報学の関係，全国図書館大会第13分科会招待講演，2013年11月22日，福岡市

古賀崇，つながる図書館：図書館が他の機関と連携することとは，平成24年度大阪府図書館司書セミナー(第3回)招待講演，2012年10月16日，大阪府立中央図書館

古賀崇，大学図書館のミッション・業務の再点検：教育支援・学習支援の観点から，平成

24年度公立大学協会図書館協議会研修会(招待講演)，2012年09月07日，京都

Oda, Mitsuhiro, Which Method? The SSS of Training Programmes for Reference Librarians: Case Studies in Japan World Library and Information, Congress: 78th IFLA General Conference and Council, 2012年08月13日~2012年08月14日，Helsinki (Finland)

Oda, Mitsuhiro, Significance and Efficiency of Visiting-Instructor Training Programme: Opportunities for Sharing Competence of Reference Staff, 4th International Conference on Qualitative and Quantitative Methods in Libraries, 2012年05月23日，Limerick (Ireland)

根本彰，青柳英治，松本直樹 図書館専門職養成の質向上のための予備的考察：「臨床心理士」「管理栄養士」の事例をもとにして，日本図書館情報学会春季研究集会，2012年05月12日，三重大学

Oda, Mitsuhiro, Creating a Culture of Librarian's Knowledge Sharing: A Trial in Japan International Conference on Digital Libraries and Knowledge Organization, 2012/1/13, Durgam, India

Kishida, Kazuaki, History and recent trends in library and information science in Japan International Symposium on Library and Information Science Education: Trends and Visions, 2011/10/20, Department of Library and Information Science, National Taiwan University (Taipei)

Oda, Mitsuhiro, Graduate Research and Education for Sustainable Development, 2011/9/2, Nakhon Phanom University, Thailand

Takeuchi, H. Nemoto, A. et al. Library And Information Science Examination: A Report On Provisional Implementation In Japan. Asia Pacific Conference on Library & Information Education and Practice, 2011/6/23, Putrajaya, Malaysia.

Miwa, M, Kasai, Y., Miyahara, S. Global LIS: An Effort to Describe Trends in Japanese LIS Education for Global Collaboration, Asia-Pacific Conference on Library and Information Education and Practice (A-LIEP), 22-24 June 2011, Putrajaya, Malaysia.

Umino, Bin, Kageura, Kyo and Toda, Shinichi. The correlation between library circulation and bookstore circulation in Japan: A time series analysis, Asia-Pacific Conference on Library and Information Education and Practice. 22-24 June 2011, Putrajaya, Malaysia.

小田光宏, レポートライティング技法の育成における図書館情報学の知見の活用に関する実践的研究, 平成 22 年度西日本図書館学会秋季研究発表会, 2010/12/4, 活水大学(長崎)

〔図書〕(計 11 件)

根本彰, 学文社, 場所としての図書館・空間としての図書館: 日本、アメリカ、ヨーロッパを見て歩く, 2015, 1-125

根本彰監修, 中村百合子・松本直樹・三浦太郎・吉田右子編著, ミネルヴァ書房, 図書館情報学教育の戦後史: 資料が語る専門職養成制度の展開, 2015, 1-1039

根本彰(研究代表者), 東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営コース, 図書館情報学検定試験報告書, 2015, 1-109

Miwa, Makiko and Miyahara, Shizuko (eds.), Springer, Quality Assurance in LIS Education: An International and Comparative Study, 2014, 1-364

ルービン, リチャード著 根本彰訳, 東京大学出版会, 図書館情報学概論, 2014, 1-372

根本彰・岸田和明編著, 東京大学出版会, 情報資源の組織化と提供, 2013, 1-198

根本彰編著, 東京大学出版会, 情報資源の社会制度と経営, 2013, 1-286

根本彰編著, 東京大学出版会, 図書館情報学基礎(シリーズ図書館情報学), 2013, 1-267

根本彰, ミネルヴァ書房, 理想の図書館とは何か: 知の公共性をめぐって, 2011, 1-208

日本図書館情報学会図書館情報学検定試験実施検討委員会編, 日本図書館情報学会, 図書館情報学検定試験準備試験報告書, 2011, 1-86

根本彰, 上田修一, 小田光宏, 永田治樹, 日本図書館協会, 図書館情報学検定試験問題集, 2010, 1-163

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

根本 彰(NEMOTO, Akira)
東京大学・教育学研究科・教授
研究者番号: 90172759

(2) 研究分担者

影浦 峡(KAGEURA, Kyo)
東京大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号: 00211152

(3) 連携研究者

青柳 英治(AOTAGI, Eiji)
明治大学・文学部・准教授
研究者番号: 00515075

海野 敏(UMINO, Bin)
東洋大学・社会学部・教授
研究者番号: 80232891

小田 光宏(ODA, Mitsuhiro)
青山学院大学・教育人間科学部・教授
研究者番号: 00185604

河西 由美子(KASAI, Yumiko)
玉川大学・通信教育学部・准教授
研究者番号: 10365869

岸田 和明(KISHIDA, Kazuaki)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号: 90234210

倉田 敬子(KURATA, Keiko)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号: 50205184

古賀 崇(KOGA, Takashi)
天理大学・人間学部・准教授
研究者番号: 60390598

鈴木 崇史(SUZUKI, Takafumi)
東洋大学・社会学部・准教授
研究者番号: 70507037

竹内比呂也(TAKEUCHI, Hiroya)
千葉大学・文学部・教授
研究者番号: 10290149

谷口 祥一(TANIGUCHI, Shoichi)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号: 50207180

研谷 紀夫(TOGIYA, Norio)
関西大学・総合情報学部・准教授

研究者番号：00466830

中村 百合子 (NAKAMURA, Yuriko)
立教大学・文学部・准教授
研究者番号：80411057

野末 俊比古 (NOZUE, Toshihiko)
青山学院大学・教育人間科学部・准教授
研究者番号：70300704

松本 直樹 (MATSUMOTO, Naoki)
大妻女子大学・社会情報学部・准教授
研究者番号：

三浦 太郎 (MIURA, Taro)
明治大学・文学部・准教授
研究者番号：40361597

三輪 眞木子 (MIWA, Makiko)
放送大学・教養学部・教授
研究者番号：90333541

芳鐘 冬樹 (YOSHIKANE, Fuyuki)
筑波大学・図書館情報メディア研究科・准
教授
研究者番号：30353428

吉田 右子 (YOSHIDA, Yuko)
筑波大学・図書館情報メディア研究科・教
授
研究者番号：30292569

(2)研究協力者

今井 福司 (IMAI, Fukuji)
河村 俊太郎 (KAWAMURA, Shuntaro)
浅石 卓真 (ASAISHI, Takuma)
常川 真央 (TSUNEKAWA, Mao)
南 亮一 (MINAMI, Ryoichi)